

かたちのことば「私記」

大きな画面には、墨の面が4つ描かれています。

深々とした墨色に存在感のあるものや、和紙の滲みがやわらかいものなど、4つの面はそれぞれの表情をたたえながら、お互いにわずかな距離を保ち、静かに画面を漂っています。

「二つのかたちが なにか言葉を交わしはじめるのが聞こえる。」

「なぜこへ？」
「なんとなく…」
(中略)

それぞれのかたちは互いにことばを交わしだし、仲のいい日も悪い日もあり、その内容は絵を見るひとの心ごころで、それはひとえに、



「私記」 1988年 墨、和紙

かたちのことばの聞き取り方によるらしい。絵の、こういう、うちわのことばは、かたちからも、かたちとわたしのあいだからも、おくられていて、それは立ち止まって聞くひとがあってもなくても、ささやきつつけている。」

〔桃紅えほん〕世界文化社2002年

桃紅は見得ぬものをかたちにし、生まれたかたちたちの語らいに耳を澄まします。桃紅と作品との親密な対話は、作品を新たなものへと作り変え、また作品は、見る人との対話によってさまざまに変化していきます。

本展では、1990年代の作品を中心に、桃紅の墨から生まれたかたちとわたし、そして余白との語らいに注目し、その豊かな世界をご紹介します。

- ◆会 期 9月28日(日)まで
- ◆入 館 料 高校生以上 300円
中学生以下 無料
- ◆休 館 日 月曜および祝日の翌日
- ◆開館時間 午前9時～午後4時30分
- ◆照 会 先 篠田桃紅美術空間
☎23-7756

ひとひと
女と男

ともに自分らしく生きよう vol. 50

さんかくサポーターの豆知識④

男女共同参画社会

「男女役割分担」

照会先 さんかくサポーター事務局
(企画政策課内) ☎23-6831

男女共同参画というのは最近耳慣れた言葉ではありますが、今ひとつはっきりとその意味が理解できていないという硬い言葉でもあります。この難しい言葉の中に「男女役割分担」という身近なわかりやすい1つの言葉がでできます。この役割分担について説明してみたいと思います。これは家庭生活における活動の分担ということで、子育てや介護、家事などの大半は女性が担っていますが男性も家族の一員として役割を果たし、家庭生活と仕事、地域活動などとの両立を図るべきである、ということです。

昔から男は外で働きまた家の中の肉体労働的な仕事は男の役割であり、女は家事全般を受け持つという固定的な役割分業となっていました。これは、ただ肉体的な男女の差異により分担されていただけで現在でいう男女共同参画という本質とはまったく

異なるものであります。日本ではこのような性別役割分業意識が今だに根強く残っているのが実情です。「女らしく」「男だから」と言われて育つ過程の中で形作られていく意識は性別役割分業を強要して女と男を縛っています。

現在では、例えば夫婦の一方が家庭に入って育児に専念し、片一方が働くという分業体制を選択せざるを得ない面があります。男性が忙し過ぎるという問題もあるでしょう。仕事と家庭の両立問題を含め、男女役割分担をどう変えるかは国民的な課題とも言えるでしょう。男女の役割は時代によって変わっていくのではないかと考えます。 <J>

このコーナーではさんかくサポーターが制度や用語をわかりやすく紹介します。